

本文

※例文は学習用です。

書き下し：豈（あ）に悲しからずや。

書き下し：敢（あ）へて命（めい）に従はざらんや。

書き下し：何ぞ一馬（いちば）を惜（を）しまん。

書き下し：安（いづ）くんぞ魚（うを）の楽しみを知らんや。

書き下し：寧（なん）ぞ此（こ）の恨（うら）みを知らんや。

書き下し：誰（たれ）か能（よ）く過（あやま）ち無からん。

書き下し：豈（あ）に他（た）有らんや。

書き下し：王侯将相（わうこうしやうしやう）寧（なん）ぞ種（しゆ）有らんや。

書き下し：燕雀（えんじやく）安（いづ）くんぞ鴻鵠（こうこく）の志を知らんや。

書き下し：子（し）何ぞ政（まつりごと）を為（な）さざる。（疑問＝なぜ政治を行わないのか）

書き下し：君（きみ）安（いづ）くにか在（あ）る。（疑問＝あなたはどこにいるのか）

- ① 豈不_レ悲哉。
- ② 敢不_レ従_レ命乎。
- ③ 何惜_二一馬_一。
- ④ 安知_二魚之楽_一。
- ⑤ 寧知_二此恨_一乎。
- ⑥ 誰能無_レ過。
- ⑦ 豈有_レ他哉。
- ⑧ 王侯将相寧有_レ種乎。
- ⑨ 燕雀安知_二鴻鵠之志_一哉。
- ⑩ 子何不_レ為_レ政。
- ⑪ 君安在。

設問

1. 例文①「豈不悲哉。」の傍線部「豈」の読みを、送り仮名も含めて平仮名で記せ。
2. 例文①「豈不悲哉。」を反語として現代語訳せよ。「～か、いや～」の形を用いること。
3. 例文②「敢不従命乎。」の傍線部「敢」の読みを、送り仮名も含めて平仮名で記せ。
4. 例文②「敢不従命乎。」は、二重の打ち消しをふくむ反語である。最終的にどのような意味になるか、現代語訳で答えよ。
5. 例文③「何惜一馬。」の傍線部「何」の読みを、送り仮名も含めて平仮名で記せ。
6. 例文④「安知魚之楽。」の傍線部「安」の読みを、送り仮名も含めて平仮名で記せ。
7. 例文④「安知魚之楽。」を反語として現代語訳せよ。

8. 例文⑤「寧知此恨乎。」の傍線部「寧」の読みを、送り仮名も含めて平仮名で記せ。
9. 例文⑥「誰能無過。」の傍線部「誰」の読みを、送り仮名も含めて平仮名で記せ。
10. 例文⑥「誰能無過。」を反語として現代語訳せよ。「～か、いや～」の形を用いること。
11. 例文⑧「王侯将相寧有種乎。」を反語として現代語訳せよ。
12. 例文⑨「燕雀安知鴻鵠之志哉。」を反語として現代語訳せよ。
13. 反語を表す文の末尾は、読みのうえでどのような形で結ばれることが多いか。代表的な結び方を二つ、平仮名で記せ。
14. 次の各文は「疑問」か「反語」か。それぞれ答えよ。
 - (1) 例文③「何惜一馬。」(書き下し：何ぞ一馬を惜しまん。)
 - (2) 例文⑩「子何不為政。」(書き下し：子何ぞ政を為さざる。)
15. 次の各文は「疑問」か「反語」か。それぞれ答えよ。
 - (1) 例文⑦「豈有他哉。」(書き下し：豈に他有らんや。)
 - (2) 例文⑪「君安在。」(書き下し：君安くにか在る。)
16. 例文⑩「子何不為政。」と例文③「何惜一馬。」は、どちらも「何ぞ」で始まる。意味のうえでどう異なるか、簡潔に説明せよ。
17. 白文「豈不悲哉」を、解答欄の指示に従って書き下し文に直せ。
18. 白文「誰能無過」を書き下し文に直せ。
19. 白文「安知魚之樂」を書き下し文に直せ。
20. 白文「王侯将相寧有種乎」を書き下し文に直せ。
21. 反語という表現を用いると、ふつうに「～ない」と述べる場合と比べてどのような効果が生まれるか。三十字程度で説明せよ。
22. 反語の文末によく用いられる「ん(む)」は、文法的にはどのような意味を表す語か。簡潔に答えよ。